

石川条里遺跡 現地公開 説明資料

一般財団法人長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター

所在地：長野市篠ノ井塩崎

調査原因：国土交通省長野国道事務所による一般国道 18 号(坂城更埴バイパス)改築工事

調査期間：平成 28 年 4 月 13 日～11 月 30 日(予定)

調査面積：平成 28 年度：12,000 m² (予定)

1 遺跡の概要

石川条里遺跡は千曲川の自然堤防上の塩崎遺跡群や篠ノ井遺跡群に隣接した後背湿地にあります。石川条里遺跡は、昭和 57 年以降の発掘調査で平安時代の碁盤目状の水田跡(条里水田)やその下層で弥生～古墳時代の水田跡が見つかり、塩崎遺跡群や篠ノ井遺跡群、横田遺跡群の大集落遺跡に隣接した広大な水田遺跡として知られています(第 2 図)。なお、石川条里遺跡内には小微高地も点在し、高速道地点や楢下地点で古墳時代の祭祀跡も発見されています。

2 本年度の調査の成果 ～水田の下に眠る中世のムラ～

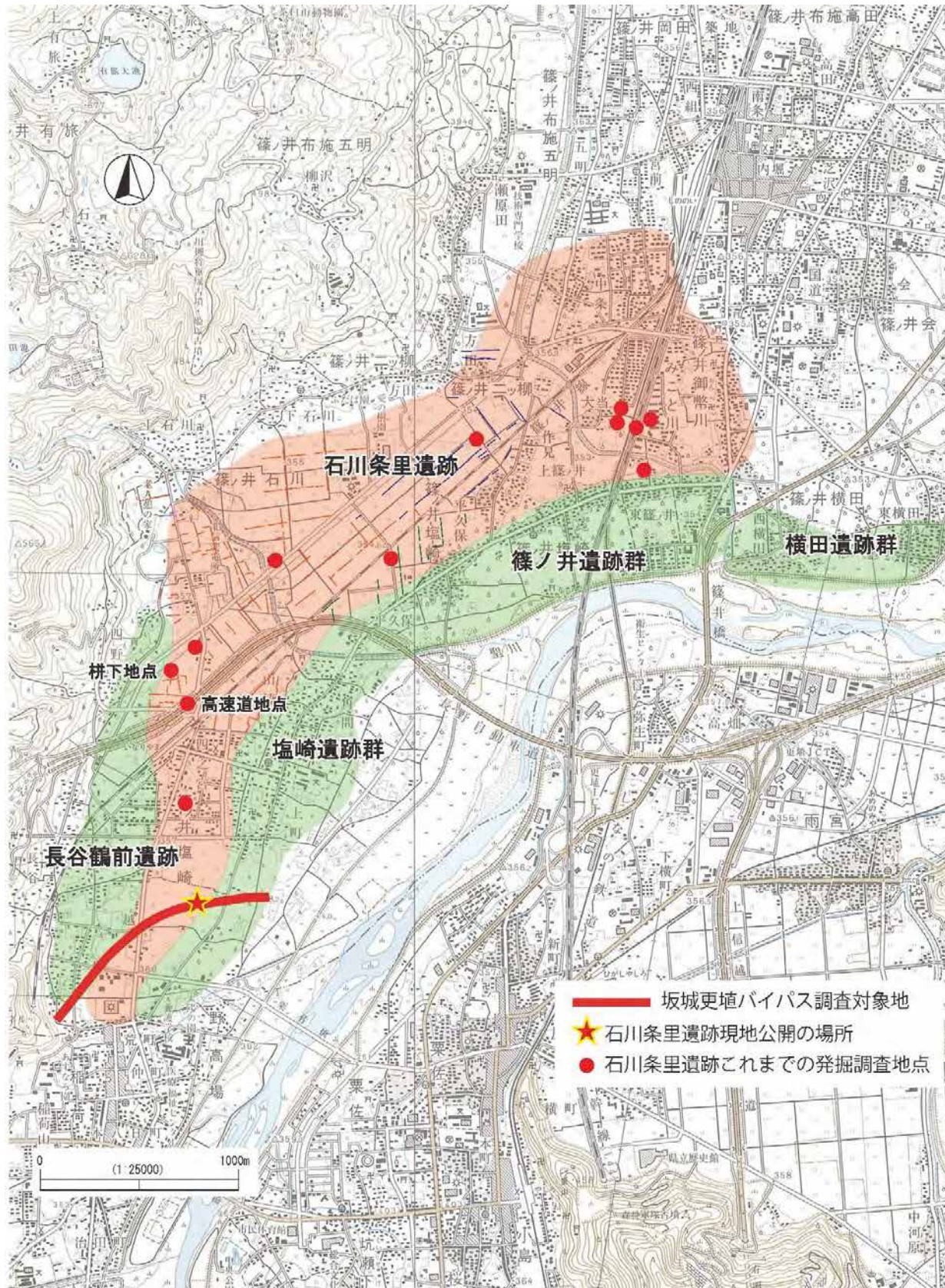
1 区は塩崎遺跡群に接する地区で、現代の水田の下から中・近世の畑跡や掘立柱建物跡、井戸跡などが見つかりました(第 1 図)。掘立柱建物は地面に掘った穴に柱を立てて造っていますが、その柱が沈まぬよう柱穴の底に礎盤石(第 1 図写真参照)を置いた建物跡が 2 棟確認されました。この他、柱穴と考えられる穴が 200 基以上見つかっており、中世から近世にかけて多くの建物跡があったと推定しています。また、溝跡も複数見ついています。東西方向の 2 本の溝は北側が中世、南側が近世に掘られたものと考えられます。礎盤石がある 1 号掘立柱建物跡(ST001)は、中世の溝(SD009)に平行して建てられていることから、中世の建物跡と推定されます。また 2 号掘立柱建物跡(ST002)は近世の畑跡(SL002)より古く、1 号掘立柱建物跡より後に造られています。

調査前まで、水田が継続的に営まれた場所と予想していましたが、中世では水田ではなかったことが今回確認されました。

石川条里遺跡の主な遺構

遺構種類	古代	中・近世
水田跡(畦畔)	1	—
畑跡	—	3
掘立柱建物跡	—	3
井戸跡	—	18
墓跡	—	3
溝跡	1	40

中世のムラの跡は、平安時代の洪水で堆積した土砂、あるいは洪水後に一旦耕作された地層の上で見ついています。この中世のムラが現れた背景には、平安時代の洪水による地形変化が関係した可能性もあり、土地区画や利用方法の変化もあわせて詳細を調べる予定です。



第 図 石川条里遺跡周辺の遺跡及び石川条里遺跡調査地点

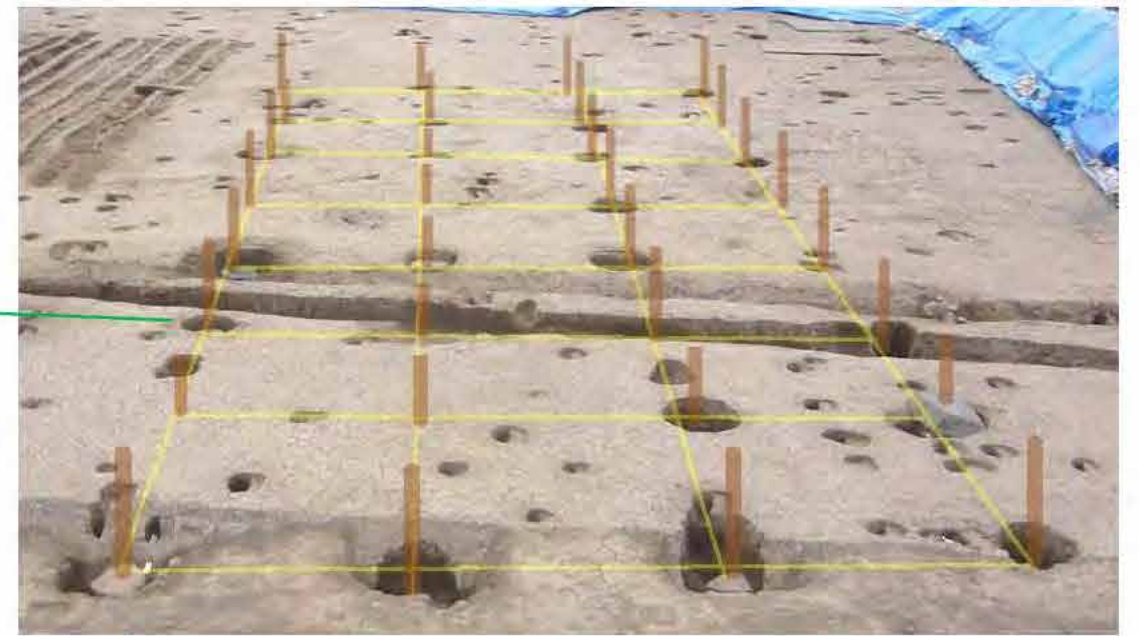
石川条里遺跡現地公開説明資料
 長野県埋蔵文化財センター
 事務所：026-293-5926
 発掘現場：080-9560-1354
 (担当者：市川)
 発行：平成 28 年 7 月 5 日



2号掘立柱建物跡(中世)



柱穴底の礎盤石(中世)



1号掘立柱建物跡(中世)



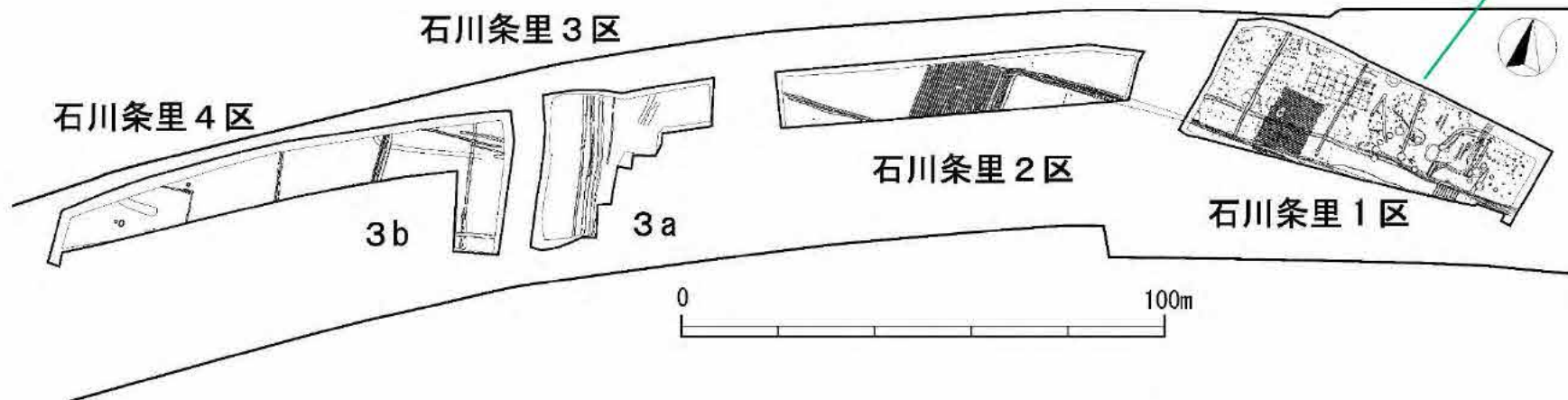
畑の跡(近世)



石川条里遺跡1区の遺構(中世・近世)

● 古銭が出土した遺構

0 10m



井戸跡などから出土した古銭(中世)

第1図 石川条里遺跡の調査状況(中世・近世)